

日本人 2 型糖尿病患者における細小血管障害と夜間頻尿との関連

【背景】

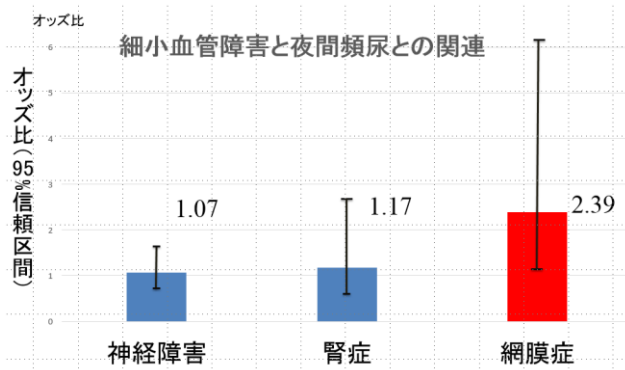
夜間頻尿は、睡眠を障害し生活の質を低下させます。一般集団を対象とした疫学研究において、糖尿病と夜間頻尿との正の関連が認められ、その機序として腎機能悪化による尿濃縮能の低下や神経障害による膀胱機能低下等が推測されます。一方、糖尿病患者を対象とした疫学研究では、細小血管障害（神経障害、網膜症、腎症）と夜間頻尿との関連を調べた研究が 1 つだけ存在します。

【方法】

道後 STUDY に参加した 1051 名のうち、データ欠損のない 751 名の 2 型糖尿病患者を対象としました。自記式質問調査票の「この 1 週間で、夜寝てから朝起きるまでにトイレに行くために何回起きますか」という質問に対して「1 回以上」と回答したものを夜間頻尿と定義しました。網膜症は前増殖性網膜症以上（レーザー治療後も含む）、神経障害は簡易診断基準、腎症はマクロアルブミン尿もしくは eGFR が $30\text{ml}/\text{min}/1.73\text{m}^2$ 未満の両方もしくはいずれかを満たすことと定義しました。交絡因子として年齢、性、body mass index、糖尿病罹病期間、喫煙、飲酒、高血圧、虚血性心疾患、脳卒中、HbA1c を補正しました。

【結果】

神経障害および腎症は夜間頻尿との関連を認めず、糖尿病網膜症のみ夜間頻尿と統計学的に有意な正の関連を認めました。[補正後オッズ比: 2.39 (95%信頼区間 1.08–6.11)]。



【結論】

日本人 2 型糖尿病において、糖尿病網膜症は夜間頻尿の有症率の高まりと関連するのかもしれませんが。

【出典】

Furukawa S, Sakai T, Niiya T, Miyaoka H, Miyake T, Yamamoto S, Maruyama K, Tanaka K, Ueda T, Senba H, Torisu M, Minami H, Onji M, Tanigawa T, Matsuura B, Hiasa Y, Miyake Y. Microvascular complications and prevalence of nocturia in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: The Dogo Study. *Urology* 2016; 93: 147-151.